

第 1 号議案

平成 20 年度事業報告

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

1. 会務運営

(1) 総 会

第 41 回通常総会を平成 20 年 5 月 26 日 15 時 30 分から、東京都千代田区・日本都市センター会館において開催し、下記の議案を付議した。出席者は委任状(4,203 名)を含め 4,289 名であった。

- 1) 平成 19 年度事業報告、同決算報告、平成 20 年度事業計画案、同収支予算案を審議し、それぞれ原案どおり承認、可決した。
- 2) 内川浩氏、大城武氏、川上英男氏、具志幸昌氏、園部泰寿氏、玉井元治氏、塚山隆一氏、長島弘氏、永松静也氏、久松光世氏、蒔田実氏、本岡順二郎氏、山下博氏の 13 名を名誉会員として推挙することを承認した。
- 3) 任期満了に伴う役員の後任選挙の結果、会長に阪田憲次氏はじめ、副会長・理事・監事の 22 名が当選した旨報告があり承認した。

(2) 理事会

1) 定例理事会

定例理事会を 4, 5, 6, 8, 10, 12, 2, 3 月の合計 8 回開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

平成 19 年度事業報告、同決算報告、平成 20 年度事業計画案、同収支予算案を承認した。

任期満了に伴う後任役員選挙を実施した。

会員の入退会を承認した。

2008 年日本コンクリート工学協会賞 論文賞 3 点(受賞者 8 名)・技術賞 3 点(受賞者 10 名)・奨励賞 4 点(受賞者 4 名)・作品賞 3 点(受賞者 15 名)および功労賞 10 名を決定した。

平成 20 年度コンクリート技士・同主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。

2) 臨時理事会

臨時理事会を平成 20 年 5 月 26 日に開催し、五十嵐理事を専務理事に選任した。

(3) 登録事項その他

- 1) 平成 20 年 6 月 3 日に、役員ならびに資産総額の変更登記を完了した。
- 2) 平成 20 年 6 月 12 日に、平成 19 年度業務及び財産状況等の報告、および役員ならびに資産総額の変更登記完了報告を国土交通大臣に提出した。

(4) 委員会

委 員 会	委員長	委員数	部会数	委員会開催数	
				委員会	部会等
企画調整委員会	阪田 憲次	12	0	7	0
総務財務委員会	富田 六郎	10	0	2	0
役員候補推薦・調整委員会	河野 広隆	16	0	2	0
協会賞選考委員会	辻 幸和	20	0	3	0
公益法人制度改革対応委員会	辻 幸和	12	0	7	0
学術委員会	辻 幸和	13	0	0	0
研究委員会	畑中 重光	18	1	3	5
技術委員会	榎田 佳寛	10	0	1	0
標準化委員会	榎田 佳寛	10	0	0	0
国際委員会	芳村 学	12	0	4	0
広報委員会	富田 六郎	10	2	0	20
コンクリート工学編集委員会	睦好 宏史	38	12	11	14
コンクリート工学論文集編集委員会	白井 伸明	20	0	6	0
ACT 編集委員会	三橋 博三	12	0	5	0
文献調査委員会	溝渕 利明	21	2	11	18
コンクリート工学年次大会委員会	辻 幸和	16	0	2	0
コンクリート工学年次大会 2008(福岡)実行委員会	江崎 文也	70	9	2	18
コンクリート工学年次大会 2009(札幌)実行委員会	田畑 雅幸	71	6	6	6
コンクリート工学年次論文査読委員会	岡本 享久	37	0	3	1
既存構造物の性能評価に関する JCI-KCI Joint Committee	三橋 博三	18	0	8	9
プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会	万木 正弘	43	4	2	46
ピロティー式構造物およびラーメン高架橋の耐震性能と耐震対策研究委員会	鈴木 計夫	25	4	2	23
プレストレス技術の有効利用に関する研究委員会	西山 峰広	32	2	3	9
品質試験方法と施工時諸特性との相関性評価研究委員会	綾野 克紀	23	3	3	11
セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法研究委員会	五十嵐心一	12	0	3	0
コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化に関する研究委員会	堺 孝司	28	4	3	7
コンクリート材料ならびに関連規格の国際調査研究委員会	魚本 健人	26	5	5	9
混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会	名和 豊春	27	4	3	11
性能指向型耐震補強研究委員会	菅野 俊介	27	3	1	11
コンクリートの基本技術調査委員会	山本 泰彦	10	3	4	12
コンクリートポンプ施工技術調査委員会	十河 茂幸	26	3	3	30
マスコンクリートソフト作成委員会	田辺 忠顕	21	0	10	0

委 員 会	委員長	委員数	部会数	委員会開催数	
				委員会	部会等
コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会	武若 耕司	15	2	0	9
コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	阿部 道彦	29	3	3	16
ISO/TC71 対応国内委員会	上田 多門	66	5	1	31
アジアモデルコード研究委員会	野口 貴文	27	3	1	10
JCI 規準委員会	早川 光敬	5	0	0	1
電子情報化委員会	中村 光	11	0	6	0
コンクリートの収縮問題検討委員会	十河 茂幸	14	0	6	0
コンクリート技術講習会委員会	清水 昭之	15	0	3	1
コンクリート技士試験委員会	桙田 佳寛	25	4	3	20
コンクリート技士研修委員会	阿部 道彦	18	1	3	3
コンクリート診断士委員会	清水 昭之	18	0	3	0
コンクリート診断士講習会小委員会	大即 信明	20	1	3	4
コンクリート診断士試験小委員会	万木 正弘	49	6	1	45
コンクリート診断士研修小委員会	梅原 秀哲	23	1	3	3
倫理規定等制定 WG	畑中 重光	4	0	1	0
ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員会	魚本 健人	12	1	0	10
計		1,097	94	162	413
				575	

2. コンクリートに関する調査研究

(1) 学術委員会所管の委員会

- 1) 既存構造物の性能評価に関する JCI-KCI Joint Committee (平成 18~20 年度)

(2) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 20 年度終了する委員会

- 1) TC071A プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会
(平成 19~20 年度)
- 2) TC072A ピロティ式構造物及びラーメン高架橋の耐震性能と耐震対策
研究委員会 (平成 19~20 年度)
- 3) TC073A プレストレス技術の有効利用に関する研究委員会 (平成 19~20 年度)
- 4) TC074A 品質試験方法と施工時諸特性との相関性評価研究委員会
(平成 19~20 年度)
- 5) TC075B セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法研究委員会
(平成 19~20 年度)

(B) 平成 21 年度継続する委員会

- 1) TC081A コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化に
関する研究委員会 (平成 20~21 年度)
- 2) TC082A コンクリート材料ならびに関連規格の国際調査研究委員会

(平成 20～21 年度)

3) TC083A 混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する

研究委員会 (平成 20～21 年度)

4) TC084A 性能指向型耐震補強研究委員会

(平成 20～21 年度)

(3) 技術委員会所管の委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会

2) マスコンクリートソフト作成委員会

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

(4) 標準化委員会所管の委員会

1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

2) ISO/TC71 (コンクリート) 対応国内委員会

3) アジアモデルコード研究委員会

4) JCI 規準委員会

(5) 電子情報化委員会

(6) コンクリートの収縮問題検討委員会

* 研究専門委員会等の活動報告

(1-1) 既存構造物の性能評価に関する JCI-KCI Joint Committee (平成 18～20 年度)

既存構造物の性能評価モデルコード(案)を作成するために引き続き調査研究を行った。そして、日韓双方が各々の研究成果を持ち寄って意見を交換することにより、両国に共通の既存コンクリート構造物の性能評価モデルコード作成に取り組んだ。その成果を基に、モデルコード原案を英文で作成し、2009 年 2 月には ISO/TC71/SC7 へ提案した。また、これまでの研究成果を会員に還元するために、JCI-KCI ジョイントセミナーを JCI 年次大会において開催した。さらに、これまでの研究成果を踏まえつつ、既存構造物の性能評価指針本文原案を作成した。

(2-A-1) TC071A プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会(平成 19～20 年度)

プレキャストコンクリート(PCa)製品の普及・発展に資する技術資料を整備することを目的とし、設計方法、実態調査、リサイクル材等利用の 3 つの WG を設けて活動を行った。設計 WG では製品及び構造物としての事例研究を行うとともに、PCa 製品に限界状態設計法を用いることの整合性、PCa 製品を組み立てる際に問題となる接合方法の問題点などの整理・検討を行った。実態調査 WG では建築系、土木系製品に分けて製造、設計および施工の観点からアンケート調査を行い、製品に対する意識の違いなどの実態調査を行った。リサイクル材利用 WG では利用可能なリサイクル材の選定を文献を中心に調査するとともに、再生骨材 M の利用検討、混合セメントの利用、環境評価などを取りまとめた。これらの結果は 8 月に開催するシンポジウムで公表する予定である。

(2-A-2) TC072 A ピロティー式構造物及びラーメン高架橋の耐震性と耐震対策研究委員会

(平成 19～20 年度)

一階に壁が無いが、少ないピロティー式建物は、利用効率が良いこともあって需要は極めて高い。他方土木ではラーメン高架橋として普通に使われている。兵庫県南部地震では、柱の靱性不足、壁の存在等の理由もあって、多くのものが大被害を受けた。そのため、これら構造物の耐震性は、特に建築では危険性が高いと評価されてしまっているが、その対策は示されていない。

本委員会は、既存のこの種構造物の問題点を明らかにすると共に、その補強対策、今後の設計手法等の検討を行い、一応の成果を得て本年 9 月末シンポジウムを開催する予定である。ただ、補強対策および設計手法等の要綱、指針等の作成は今後の課題とした。

(2-A-3) TC073 A プレストレス技術の有効利用研究委員会 (平成 19～20 年度)

コンクリート工学年次大会 2008 (福岡) において当研究委員会主催の研究集会「プレストレス技術の今、そして未来」を開催した。先進技術、長寿命、環境対応、部材リユース、高強度・高性能材料の利用、グラウト施工と検査、法令・基規準などをテーマとして、PC 構造に関する各種研究プロジェクトの紹介、実設計施工例紹介などに基づき、今後の PC 構造について議論した。

また、WG 活動をさらに進め、基本技術および次世代技術の収集とその方向付けを検討した。報告書目次案および執筆担当者案を作成し、締め括りとなるシンポジウム (報告会) 開催計画を策定した。

(2-A-4) TC074 A 品質試験方法と施工時諸特性との相関性評価研究委員会

(平成 19～20 年度)

設計時に設定された性能と、同じコンクリートが実際に施工されるために、施工の各段階において必要とされる、適切な品質試験方法の現状を調査すること、コンクリートの品質評価のために提案されている、種々の試験方法が施工時のどの段階の特性を、より良く評価しているかを、明らかとすることを目的に調査研究を行った。コンクリートの特性を評価する新しい試験法や、施工時に取り決められている様々な仕様が実際に担保されているかを確認するための試験方法に関してとりまとめた。また、文献調査に加え、実際の施工に携わっている建設関連各社において独自に開発されたもの、経験的に実施している技術をアンケート調査によって収集した。報告会は、7 月 31 日 (金) に実施する。

(2-A-5) TC075 B セメント系材料の自己修復性の評価とその利用法研究委員会

(平成 19～20 年度)

コンクリートの自己修復機能を、工学的に応用することを目的として、自己修復性に関する国内外の既往の研究を整理し、新しい材料および構造システムの開発に関する研究動向の把握を行った。漠然としたイメージである自己修復性を、現象と機構の観点から区分してその定義を明確に示した。それらと研究開発事例との対応を示しながら、具体的な工

学的展開の可能性を啓蒙する研究集会を JCI 年次大会（福岡）にて開催した。また研究成果報告書として自己修復性に関する国内外の研究を網羅した State-of-the-Art レポートを取りまとめ、一部の成果については、RILEM に設置されている委員会を通じて、世界に向けて情報発信を行った。

(2-B-1) TC081 A コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化に関する研究委員会（平成 20～21 年度）

コンクリートセクターとしての地球温暖化物質と廃棄物の最小化による環境負荷低減について検討するために、地域ごとの物質フローおよび材料・産業ごとの物質フローの実態を明らかにする「物質フローWG」、インベントリデータ作成・利用方法を提示する「インベントリデータWG」、低環境負荷要素技術の組み合わせによる短中長期的な地球温暖化物質・廃棄物の削減方法を提案する「ポートフォリオWG」、および社会科学的観点から地球温暖化物質・廃棄物の最小化を促す施策を提言する「社会システムWG」を設置して活動を行った。平成 20 年度は、主として関連情報の収集と活動の範囲についての広範な議論を行った。なお、この他「fib ロンドンシンポジウムおよび ISO/TC71/SC8 対応WG」を設けて必要な検討を行った。

(2-B-2) TC082 A コンクリート材料ならびに関連規格の国際調査研究委員会（平成 20～21 年度）

本研究委員会は、コンクリート及びコンクリート材料を主とする建設材料に関する情報共有・交換を行うため、土木学会、カナダ土木学会の協力を得て国際シンポジウム（ConMat'09）を主催するとともに、世界各国の主要な研究者の協力を得ながら、現実に各地域で使用されているコンクリート材料と規格の実際についてとりまとめることを目的とする。平成 20 年度は、国際アンケート調査における調査項目、調査者の抽出を行うとともに、国際会議の実施計画を策定し、公式ホームページを立ち上げ、論文投稿を募った。アブストラクト申込件数は 290 編余に達し、論文原稿の査読を実施した。

(2-B-3) TC083 A 混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会（平成 20～21 年度）

環境負荷低減の観点から、産業副産物である高炉スラグ微粉末やフライアッシュなどの混和材料を使用したコンクリートの利用促進を目指し、ひび割れ発生対策を含め、総合的な混合セメントの性能改善に関する技術を進展させることを目的として、本年度は、品質・性能（ひび割れ）WG、品質・性能（耐久性）WG、規格・施工WG、利用検討WGの4つのWGを設置し、文献・事例調査を実施するとともに、ひび割れ抵抗の評価方法について検討を行い、このための実験計画を策定し、一部について実施した。また、この分野に関連する研究や技術の動向を調査するため3回の招待講演を実施した。

(2-B-4) TC084 A 性能指向型耐震補強研究委員会（平成 20～21 年度）

従来の「耐震性向上」に加え、「機能性」、「復旧性」、「使用性」などの高度な性能を付与させる耐震補強（性能指向型補強）について広く調査し、技術の現状と課題を明らか

にすると共に、この種の耐震補強技術の発展・普及を図るために必要な技術資料をまとめることを目的として、研究 WG、設計 WG、実施例 WG を設けて活動を行った。本年度は、耐震補強における目標性能および制約条件と「研究」、「設計」および「実施例」との関わりについて議論を進め、委員会がまとめるべき方向を明らかにした。また、成果物の出版や国際会議開催の可能性についても議論した。

(3-1) コンクリート基本技術調査委員会

本年度は、コンクリートの基本技術のうち、「コンクリートの打込み・締固め技術」、「コンクリートの養生技術」、「コンクリートの不具合補修技術」の 3 テーマの WG、およびコンクリートポンプ施工技術調査委員会の活動を行った。

各 WG では、それぞれの技術の課題を整理して、基本とするべき方向を議論した。

コンクリートポンプ施工技術調査委員会では、ポンプ圧送ガイドラインおよび資料編を取りまとめた。

本委員会では、各 WG の主査からの報告に対する意見交換等を行い、WG 活動が円滑に行われるよう支援した。

(3-2) マスコンクリートソフト作成委員会

本年度に、マスコンクリート 3 次元温度・乾燥・温度応力（自己収縮・乾燥収縮）応力解析プログラム（JCMAC3）を完成させた。2008 年 12 月に、「JCMAC3」リリースに向けたセミナーを開催し、2009 年 1 月からレンタルを開始した。

また、新 CP 法の理論構築と現行ソフトのバージョンアップを行うと共に、既存の JCMAC1 および JCMAC2 のサポートを行った。

(3-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

平成 18 年度に市販した LECCA ver.1.0（マクロ環境情報データベースおよび環境外力算定プログラム＋劣化シミュレーション簡易ソフト）に関しては、簡易劣化ソフトにおけるコンクリート中の塩分拡散量推定式の見直しを行った。劣化シミュレーションソフト部分の機能を改善させ、鉄筋腐食進行過程も含めて二次元でのシミュレーションが可能な LECCA ver.2.0 については、塩害、中性化ならびに凍害のシミュレーションモデルのプログラム化ならびにユーザーインターフェイス等をほぼ完了し、ケーススタディーによる最終確認段階まで到達した。

(4-1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

次の試験方法 JIS につき、改正原案を作成した。

JIS A 1107	コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法
JIS A 1112	フレッシュコンクリートの洗い分析試験方法
JIS A 1123	コンクリートのブリーディング試験方法
JIS A 1153	コンクリートの促進中性化試験方法
JIS A 1154	コンクリート硬化体中の塩分の試験方法
JIS A 1155	硬化コンクリートの反発度の試験方法

(4-2) ISO/TC71(コンクリート)対応国内委員会

(1) ISO 規格案等への対応

CD, DIS, FDIS 等の各種規格案について検討し, 日本としての投票を行った。

また, 現行規格についても, 5年毎の定期見直し作業に対応して, 投票を行った。

(2) ISO/TC71 総会および各 SC への対応

2009年2月12日に, エジプト・カイロにおいて開催された ISO/TC71 総会, および総会に先立ち2月9日から開催された各 SC (SC1, SC3, SC4, SC5, SC6, SC7, SC8) に8名の委員が出席した。

(4-3) アジアモデルコード研究委員会

本委員会は, 平成6年から継続的に続いている委員会であり, 初年度にアジア各国の委員からなる「アジアコンクリートモデルコード国際委員会」(以下, ICCMC) が設置され, その後は ICCMC の日本国内の窓口として, 設計 WG, 材料・施工 WG および維持管理 WG を設置して, ICCMC への委員の派遣, 「アジアコンクリートモデルコード」(以下, ACMC) 作成における基本方針の提案, ACMC に準拠した具体的なコード案(レベル3コード)の作成などに関与してきた。

本年度は, 「既存鉄筋コンクリート構造物の耐震診断・耐震補強」に関して, 設計 WG と維持管理 WG との合同作業を行ってレベル3文書の原案を作成し, それを基に ISO/TC71 対応委員会 WG4 と連携して, ISO 規格の草案としてとりまとめた。また, 材料・施工 WG では, 「プレキャストコンクリート」のレベル2文書を完成させるとともに, 「自己充填コンクリートの設計・製造・施工」のレベル3文書の原案作成を行い, ICCMC に提出して議論を行った。設計 WG では, 「鉄筋コンクリート構造物の耐震設計の技術の現状」のレベル3文書の原案検討を行い, 維持管理 WG では, 「中性化の影響を受けた構造物の維持管理手法」の原案差作成を行った。

(5) 電子情報化委員会

本委員会では, 協会全体に関わる情報の電子化, 情報技術の有効活用に関する議論を行い, 関連各種委員会に電子情報化についての提案を行っていくことを主要な活動項目としている。本年度は主に以下の項目に関して議論し, 具体的な活動について提案した。

- 1) 月1回のメールニュースの原稿作成, 配信
- 2) メールニュースの内容改善, ならびに閲覧者増加の方策の検討
- 3) 各研究専門委員会ホームページの作成支援, ならびに更新の推進
- 4) 協会ホームページリニューアル, ならびに運用方法・内容の検討支援
- 5) コンクリート工学論文集, コンクリート工学誌, 年次論文集, 委員会報告書などの既出版物のデジタルアーカイブ化に関する検討
- 6) 年次論文査読システム契約内容の提案

(6) コンクリートの収縮問題検討委員会

コンクリートの収縮問題に関し, 実態をより明確にし, 土木および建築分野の各業種

における共通認識の形成，実務への展開を図ることを目的に，各委員の保有する情報を基に議論を行った。

また，委員会活動の趣旨および目標についての周知を図るため，コンクリート業界紙を対象にプレスリリースを行った。

3．国際的協力および交流

- (1) 2008年5月17日に英国・ロンドン，および同10月25日に東京において開催された fib Technical Council に，堺孝司国際委員会委員が出席した。また，2009年1月30・31日にスイス・ローザンヌで開催された fib Presidium 会議において，堺委員が fib 理事に任命された。
- (2) 2008年8月25日～27日に，シンガポールにおいて開催された第33回 Conference on Our World in Concrete & Structures に，本協会を代表して阪田憲次会長が出席して開会式で挨拶するとともに，基調講演で日本のコンクリートの耐久性について講演した。
- (3) 2008年9月1日～5日に，イタリア・ヴァレンナにおいて，RILEM TAC 会議および総会が開催され，三橋博三国際委員会委員が出席した。
なお，JCI 代表については，三橋博三国際委員会委員が本年度で退任し，後任に野口貴文国際委員会委員の就任が承認された。
- (4) IBRACON(ブラジルコンクリート協会)創立50周年記念事業として，2008年9月6日～8日に，ブラジル・サルバドールで開催された International Symposium on Roller Compacted Concrete(RCC) において，長瀧重義元会長が招待講演を行った。
- (5) 2008年9月30日～10月2日に，伊勢志摩において，IA-CONCREEP と共催で，8th International Conference on Creep, Shrinkage and Durability of Concrete and Concrete Structures (CONCREEP 8)を開催した。
- (6) 2008年10月27日～29日に，東京・都市センターホテルにおいて，(社)プレストレストコンクリート技術協会，fib と共催で，8th International Symposium on Utilization of High-Strength and High-Performance Concrete を開催した。
- (7) 2008年11月3日～6日に，米国・セントルイスで開催された ACI Fall Convention に菅野俊介国際委員会委員が参加して，JCI「高強度コンクリート構造性能研究委員会報告書」英訳版の ACI 出版 (ACI IPS-3 予定) を決める委員会に出席した。
- (8) 2008年11月7日に，韓国・Ilsan において，JCI-KCI(韓国)-TCI(台湾)の3カ国シンポジウムが開催され，阪田憲次会長ほか6名が参加した。
- (9) 2008年11月10日～12日に，米国・シカゴで開催された第3回自己充てんコンクリートの設計と摘要に関する北アメリカ地域会議(SCC2008)において，大内雅博高知工科大学准教授が論文発表した際，JCI 研究活動の紹介を行った。
- (10) 2008年11月11日～13日に，ベトナム・ホーチミンで開催された ACF 第3回総会・

- 同国際会議に、阪田憲次会長、魚本健人 ACF 会長他 ACF 対応委員会委員が出席した。
- (11) 2009 年 2 月 12 日に、エジプト・カイロにおいて開催された ISO/TC71 総会、および総会に先立ち 2 月 9 日から開催された各 SC (SC1, SC3, SC4, SC5, SC6, SC7, SC8) に、ISO/TC71 対応国内委員会から 8 名の委員が出席した。
- (12) 2009 年 3 月 15 日～19 日に、米国・サンアントニオで開催された ACI Spring Convention に阪田憲次会長、睦好宏史国際委員会委員が参加して、ACI International Partnerships Committee 出席にした。
- (13) 2009 年 3 月 31 日に、スウェーデン生コン協会(SFF)代表団 8 名が本協会に来訪し、本協会から、阪田憲次会長および辻幸和副会長等 7 名が出席して意見交換を行った。

4 . 会誌・論文集・研究報告・図書等の刊行

- (1) 会誌「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布した。
特集テーマは次のとおりである。
- | | |
|------------------------|--------------|
| 1) コンクリート用骨材の現状と有効活用技術 | 平成 20 年 5 月号 |
| 2) あの構造物は、今・・・ | 平成 20 年 9 月号 |
| 3) コンクリートへのオマージュ | 平成 21 年 1 月号 |
- (2) コンクリート工学論文集を年 3 回(5 月, 9 月, 1 月)刊行して、会員に頒布した。
- (3) 英文ジャーナル Journal of Advanced Concrete Technology の Vol.6 No.2 , Vol.6 No.3 , Vol.7 No.1 を刊行して、定期購読申込者に頒布するとともに、WEB (J-Stage) で検索・閲覧ができるようにした。
- (4) 次の論文集、研究報告書、テキスト等を刊行した。
- 1) コンクリート工学年次論文集 第 30 巻 2008 年 (CD-ROM および印刷版)
 - 2) 環境時代におけるコンクリートイノベーション
 - 3) コンクリートの凍結融解抵抗性の評価方法に関する研究委員会報告書・論文集
 - 4) 構造技術者のための非線形有限要素法の基礎と実例
 - 5) 作用機構を考慮したアルカリ骨材反応の抑制対策と診断研究委員会報告書
 - 6) 高強度・高靱性コンクリート利用研究委員会報告書
 - 7) マスコンクリートのひび割れ制御指針 2008
 - 8) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針-2009-
 - 9) コンクリート技術の要点'08
 - 10) 平成 20 年度コンクリート技士研修テキスト
 - 11) コンクリート診断士研修会調査報告書'08
 - 12) コンクリート診断技術'09
 - 13) Proceedings of 8th International Conference on Creep, Shrinkage and Durability of Concrete and Concrete Structures(Concreep 8)
 - 14) Proceedings of 8th International Symposium on Utilization of High-Strength

and High-Performance Concrete (CD-ROM および印刷版)
15) Technical Committee Reports 2008 (JCI 研究委員会報告書要旨)

5. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2008 (福岡) を平成 20 年 7 月 9 日 (水) ~ 11 日 (金) の 3 日間, 福岡国際会議場において開催した。

江崎実行委員長の開会の辞, 阪田会長の挨拶, および辻副会長による JCI 活動報告に引き続いて次の行事が行なわれた。

- 1) 第 30 回コンクリート工学講演会
講演題数 621 編 参加者 1,600 名
- 2) 特別講演 聴講者 284 名
「陶房雑話」 第 15 代沈壽官
- 3) リサーチプラザ (パネル展示とディスカッション)
研究専門委員会研究成果の発表 パネル展示 12 件 42 枚 聴講者 210 名
- 4) 生セミナー: 基調講演 2 題とパネルディスカッション
テーマ「長寿命コンクリートへの展開」 参加者 703 名
- 5) 研究集会 (研究委員会等による研究成果報告, パネル討論会)
「いつまで続くひび割れ問題」等 7 テーマ 参加者 延 788 名
- 6) コンクリートテクノプラザ
展示 63 件 (77 小間) 入場者 延 7,500 名
技術紹介セッション 48 件
- 7) 見学会
学生見学会 重工業発祥の地・北九州の歴史探訪 参加者 16 名
三池炭坑・有明海・柳川めぐり 参加者 28 名
JR 九州新博多駅ビルと九州新幹線筑紫トンネル建設見学 参加者 49 名
- 8) 懇親会 福岡サンパレスホテル 参加者 293 名
- 9) 閉会式において, 論文奨励賞 69 名の表彰が行われ, 副賞として, 1784 年に博多湾に浮かぶ志賀島で発見された, 金印のペーパーウェイトが贈られた。

(2) 国際会議・国際シンポジウム

1) 8th International Conference on Creep, Shrinkage and Durability of Concrete and Concrete Structures (Concreep 8) (第 8 回コンクリートとコンクリート構造物のクリープ, 収縮および耐久性力学に関する国際会議) を, IA-CONCREEP と共催で, 9 月 30 日から 10 月 2 日までの 3 日間, 三重県・志摩観光ホテルにおいて開催した。参加者 274 名。

2) 8th International Symposium on Utilization of High-Strength and High

-Performance Concrete (第8回高強度・高靱性コンクリートシンポジウム)を、プレ
ストレスコンクリート技術協会、fib と共催で、10月27日から29日までの3日間、
東京・都市センターホテルにおいて開催した。参加者279名。

(3) コンクリート技術講習会

第41回コンクリート技術講習会を、10月2日から29日にかけて、会期2日間で全
国7都市(札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡)において開催した。

聴講者は、全国で767名(前年度736名)であった。

(4) シンポジウム・セミナー・報告会

研究委員会報告会、シンポジウム等を下記の通り開催した。

1)「環境時代におけるコンクリートイノベーション」に関するシンポジウムを、平成
20年8月4日に、東京大学弥生講堂において開催した。参加者は140名であった。

2)「コンクリートの凍結融解抵抗性の評価方法」委員会報告会・シンポジウムを、平
成20年8月28日に、東京・中央大学駿河台記念館において開催した。参加者は120
名であった。

3)構造技術者のための非線形有限要素法の基礎と応用と実例に関する講習会を、平成
20年9月4日に、本協会会議室において開催した。聴講者は110名であった。

4)合理的なアルカリ骨材反応抑制対策と維持管理に対する提言に関する講習会を、平
成20年9月5日に東京大学弥生講堂、11月7日に金沢市・KKRホテル金沢において
開催した。参加者は、両会場合わせて390名であった。

5)「マスコンクリートのひび割れ制御指針」に関する講習会を、平成20年11月21
日から平成21年2月13日にかけて、全国5都市(札幌、東京、大阪、広島、福岡)
において開催した。聴講者は、全国で611名であった。

6)3次元マスコンクリートの温度応力解析ソフトJCMAC-3講習会を、平成20年12
月8日に、東京・都市センターホテルにおいて開催した。参加者は102名であった。

7)「高強度・高靱性コンクリート利用研究委員会」報告会を、平成21年3月12日に、
東京・中央大学駿河台記念館において開催した。参加者は70名であった。

8)「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」改定講習会を、平成21年3月
16日に東京・都市センターホテル、同18日に大阪国際交流センターにおいて開催した。
聴講者は、両会場合わせて803名であった。

6. 資格試験・登録・研修

(1) コンクリート技士・同主任技士

1) コンクリート技士試験・同主任技士試験

平成20年11月30日(日)に、全国9都市(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、
高松、福岡、那覇)の試験場において、平成20年度コンクリート技士試験およびコンク
リート主任技士試験第一次試験(筆記)を実施した。主任技士第一次試験合格者については、

平成 21 年 1 月 31 日(土)に、東京において第二次試験（口述）を行った。

受験者は全国で技士 8,951 名、主任技士 3,204 名で、合格者は技士 2,709 名（合格率 30.3%）、同主任技士 384 名（12.0%）であった。

2) コンクリート技士・同主任技士の登録

本年度コンクリート技士試験・同主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士 2,689 名（登録率 99.3%）、同主任技士 384 名（合格者全員）の登録を行った。また、登録有効期間（4 年）満了となる登録者からの申請により、更新登録を行った。

この結果、平成 21 年 4 月 1 日現在の登録者数は、コンクリート技士 38,936 名、同主任技士 8,900 名となった。

3) コンクリート技士研修

コンクリート技士研修制度に基づく、平成 20 年度コンクリート技士研修会を、平成 20 年 6 月 30 日から 8 月 6 日にかけて、全国 10 都市（札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、金沢、大阪、広島、高松、福岡）において開催した。受講者は全国で 8,359 名（前年度 8,666 名）であった。

コンクリート技士試験・同主任技士試験の受験者と合格者、およびコンクリート技士・同主任技士登録者の業種別内訳は、次のとおりである。

業 種	技 士 試 験		主任技士試験		登 録 者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官 公 庁	311	173	45	8	1,138	170
学 校	8	6	2	0	66	43
設 計・コンサル	714	235	99	19	2,101	508
セ メ ン ト	106	30	54	10	662	479
混和剤・鉄鋼・骨材	131	55	133	16	844	407
生コンクリート	2,270	567	1,972	157	10,977	3,060
コンクリート製品	737	200	183	21	3,208	510
建 設	3,774	1,159	530	126	16,767	2,910
電 力・ガ ス	85	39	18	6	445	107
そ の 他	815	245	168	21	2,728	706
合 計	8,951	2,709	3,204	384	38,936	8,900

(2) コンクリート診断士

1) コンクリート診断士講習会

第 8 回コンクリート診断士講習会を平成 20 年 4 月 3 日から 4 月 27 日にかけて、全国 9 都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、広島、福岡、那覇）において開催した。受講者は 4,243 名（前年度 3,742 名）であった。

2) コンクリート診断士試験

平成 20 年 7 月 27 日(日)に、本年度から四国（高松市）試験場を加えて、全国 9 都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、那覇）において、コンク

リート診断士試験を実施した。

全国の受験者数は 4,888 名（前年度 4,726 名）で、合格者は 776 名（合格率 15.9%）であった。

3) コンクリート診断士の登録

本年度診断士試験合格者からの申請に基づき、775 名（登録率 99.9%）の登録を行った。また、登録有効期間（4 年）満了となった第 4 回（2004 年）コンクリート診断士試験合格者および未登録者のうち、コンクリート診断士研修を受講した 705 名の更新登録を行った。この結果、平成 21 年 4 月 1 日現在のコンクリート診断士登録者数は 6,835 名となった。

4) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士規則に基づく、第 4 回のコンクリート診断士研修を平成 20 年 9 月 2 日から同 29 日にかけて、7 都市において開催した。研修では、受講者より事前に提出されたコンクリートの診断・補修等に関する調査報告集（CD-ROM）、および「コンクリート診断士研修会調査報告書'08」を資料として、特別講演および診断士による調査報告が行われ、705 名（前年度 1,075 名）が受講した。

本年度の受験者・合格者および登録者の業種別内訳は、次のとおりである。

業 種	受験者	合格者	登録者
官 庁	45	6	52
独立行政法人・事業団・公庫	49	7	73
地方公共団体	155	45	161
大学・学校	7	3	35
設計事務所	74	9	91
コンサルタント	1,162	192	1,452
エンジニアリング	65	11	75
調査診断	113	24	176
建 設	2,116	302	3,057
鉄 道	60	16	130
電力・ガス	78	19	206
生コンクリート	360	31	290
コンクリート製品	125	21	194
セメント	76	14	267
道 路	111	26	109
試 験	44	5	43
混和材料	58	12	118
その他	190	33	306
合 計	4,888	776	6,835

7. 表彰

2008 年日本コンクリート工学協会賞（功労賞，論文賞，技術賞，奨励賞，作品賞）に選考されたのは、功労賞 10 名，論文賞 3 件，技術賞 3 件，奨励賞 4 件，作品賞 3

件で、通常総会に引き続いて行われた贈呈式において表彰された。

(1) 功 勞 賞 (五十音順)

江口 清 (石川工業高等専門学校) 遠藤 孝夫 (東北学院大学)
大野 定俊 (竹中工務店) 佐藤 嘉昭 (大分大学)
下山 善秀 (太平洋コンサルタント) 副田 康英 (関東宇部コンクリート工業)
田中 仁史 (京都大学) 辻 正哲 (東京理科大学)
富田 嘉雄 (セメント協会) 山崎 庸行 (清水建設)

(2) 論 文 賞

1) Nano-structural Changes of C-S-H in Hardened Cement Paste during Drying at 50

青野 義道 (住友金属鉱山シボレックス)
松下 文明 (")
柴田 純夫 (")
濱 幸雄 (室蘭工業大学)

2) Serviceability Performance Evaluation of RC Flexural Members Improved by Using Low-Shrinkage High-Strength Concrete

谷村 充 (太平洋セメント)
佐藤 良一 (広島大学)
平松 洋一 (ピーエス三菱)

3) Development of a Sustainable Concrete Waste Recycling System -Application of Recycled Aggregate Concrete Produced by Aggregate Replacing Method-

道正 泰弘 (東京電力)

(3) 技 術 賞

1) 高品質粗骨材選定技術による超高強度コンクリートの品質の安定化

渡邊 悟士 (大成建設)
寺内利恵子 (")
小田切智明 (")
阿部 剛士 (")

2) ポータブル型蛍光 X 線分析装置のコンクリートのオンサイト分析への応用

金田 尚志 (日鐵テクノロジー)
魚本 健人 (芝浦工業大学)

3) 超高強度繊維補強コンクリートを適用した長大スパン・モノレール桁の技術開発

田中 良弘 (大成建設)
小林 隆 (東京モノレール)
石堂 正之 (")
大川真佐雄 (大成建設)

(4) 奨励賞

- 1) X線回折リートベルト法による高炉セメントの水和反応解析(総合題目)
佐川 孝広(日鐵セメント)
- 2) Investigation of a Hybrid Technique for Seismic Retrofitting of Bare Frames
Md.Nafiur Rahman(琉球大学)
- 3) 鉄筋コンクリート壁の乾燥収縮ひび割れの幅と本数の算定(総合題目)
徐 泰錫(漢陽大学)
- 4) 中性子ラジオグラフィによるコンクリートのひび割れ部における水分挙動の可視化および定量化に関する研究(総合題目)
兼松 学(東京理科大学)

(5) 作品賞

- 1) バイチャイ橋
小宮 正久(日本構造橋梁研究所)
竹内きょう(KYO+環境・構造企画)
大野 浩(清水建設)
土田 一輝(")
永元 直樹(三井住友建設株)
- 2) 首都高速中央環状新宿線の換気塔
飯島 啓秀(首都高速道路)
谷口 汎邦(東京工業大学名誉教授)
一瀬 博(首都高速道路)
小杉 秀明(ドーコン)
八代 徹夫(大建設計)
- 3) D'グラフォート札幌ステーションタワー
木村 祐志(大和ハウス工業)
服部 敦志(大成建設)
一色 裕二(")
飯島 真人(")
小椋 伸幸(")

8. 広報活動

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報委員会のもとで JCI ホームページに新コンテンツ「四季の散歩道」を制作し、各地のコンクリート構造物等を紹介した。また、会誌「コンクリート工学」、協会パンフレット等により、本協会の活動状況等の広報活動を行った。

9. 公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革 3 法が昨年 12 月 1 日に施行され、本協会は平成 25 年 11 月 30 日ま

で、新法に規定された一般社団法人、または公益社団法人に移行しなければならない。

本制度改革への対応を検討・審議するために、公益法人制度改革対応委員会が設置され、4月から7回の委員会を開催して、新制度の解釈、本協会の対応策等について議論を重ね、本年2月定例理事会に中間答申を行った。

答申の中で、認定基準は厳しいが、社会的信用を得られるとともに、税制面で優遇される公益社団法人への認定申請を行うことを提案し、定款改定、規則等諸規定の整備、そして公益目的事業と非公益目的事業の事業区分、公益目的事業に区分した事業が認定基準を満たしているかの確認等、公益社団法人認定申請の準備を行うよう提言している。

10. 倫理規定等の制定

「日本コンクリート工学協会倫理綱領」、「日本コンクリート工学協会・会員倫理規定」、「コンクリート専門資格者の行動規範(一般事項)」の3規定を制定した。

11. 会員の動向

会員種別	平成19年度末 会員数	平成20年度中の異動		平成20年度末 会員数
		入会	退会	
正会員	7,568	715	751	7,532
第1種団体会員	44	2	7	39
第2種団体会員	324	12	22	314
計	7,936	729	780	7,885

12. 役員の異動

(1) 平成20年5月26日付で退任(任期満了)した役員は次の通りである。

会長 友澤史紀

副会長 大野義照, 君島健之

理事 青木吉夫, 上田多門, 江口清, 大橋茂信, 金津努, 佐藤立美, 竹下治之
近田孝夫, 富田嘉雄, 信田佳延, 早川光敬, 松田好史, 宮川豊章, 柳啓

監事 三井健郎

(2) 平成20年5月27日付, 新任役員は次の通りである。

会長 阪田憲次

副会長 富田六郎, 梶田佳寛

理事 五十嵐英暉, 枝広英俊, 小林茂広, 坂井悦郎, 佐藤勉, 佐藤良一, 千歩修
清水昭之, 田才晃, 棚野博之, 田保光夫, 水口裕之, 睦好宏史,
山崎庸行, 山本和成, 吉田治雄, 芳村学(重任)

監事 村田芳樹

13. 役員（平成21年3月31日現在）

役職名	氏名	勤務先	任期	
			～H21.5	～H22.5
会長	阪田 憲次	岡山大学大学院環境学研究科 教授		
副会長	辻 幸和	群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻 教授		
〃	富田 六郎	太平洋セメント(株) 常務執行役員		
〃	柘田 佳寛	宇都宮大学工学研究科地球環境デザイン専攻 教授		
専務理事	五十嵐英暉	(社)日本コンクリート工学協会		
理事	井上 範夫	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 教授		
〃	今井 義明	V S L ジャパン(株) 取締役		
〃	枝広 英俊	芝浦工業大学工学部建築学科 教授		
〃	大津 政康	熊本大学大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻 教授		
〃	岡沢 智	B A S F ポゾリス(株) 常務執行役員		
〃	小林 茂広	住友大阪セメント(株)執行役員セメント・コンクリート研究所長		
〃	小柳 光生	(株)大林組 技術本部技術研究所技術ソリューション部 上席研究員		
〃	坂井 悦郎	東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻 教授		
〃	佐藤 勉	(財)鉄道総合技術研究所 構造物技術研究部 耐震構造研究室長		
〃	佐藤 良一	広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻 教授		
〃	清水 昭之	東京理科大学工学部建築学科 教授		
〃	角 昌隆	西日本高速道路(株)管理事業本部管理事業部部長		
〃	千歩 修	北海道大学大学院工学研究科空間性能システム専攻教授		
〃	副田 康英	関東宇部コンクリート工業(株)技術本部技術情報管理部 部長		
〃	田才 晃	横浜国立大学大学院工学研究院建築学コース教授		
〃	棚野 博之	独立行政法人 建築研究所材料研究グループ 上席研究員		
〃	田保 光夫	(株)J P ハイテック大間事業所 所長		
〃	鳥居 和之	金沢大学理工研究域環境デザイン学系 教授		
〃	畑中 重光	三重大学大学院工学研究科建築学専攻 教授		
〃	藤本 泰久	大阪兵庫生コンクリート工業組合 常務理事		
〃	水口 裕之	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部エコシステムデザイン部門 教授		
〃	睦好 宏史	埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授		
〃	山崎 庸行	清水建設(株)技術研究所 副所長		
〃	山本 和成	(社)日本砕石協会 会長		
〃	横田 弘	独立行政法人 港湾空港技術研究所 研究主監		
〃	吉田 治雄	全国生コンクリート工業組合連合会 会長		
〃	芳村 学	首都大学東京都市環境学部建築都市コース教授		
監事	早川 康之	日本コンクリート工業(株)取締役技術開発部長		
〃	村田 芳樹	(株)セメント協会研究所コンクリート研究グループリーダー		